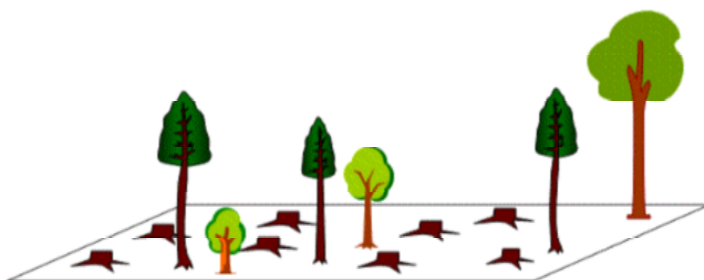


木曽ヒノキ林の成立過程

木曽ヒノキ林について研究書等により推計（イメージ図）



江戸時代以前は、ヒノキ、サワラ等の針葉樹が6～7割、カンバ類、ナラ類等の広葉樹が3～4割の天然林が分布していた。



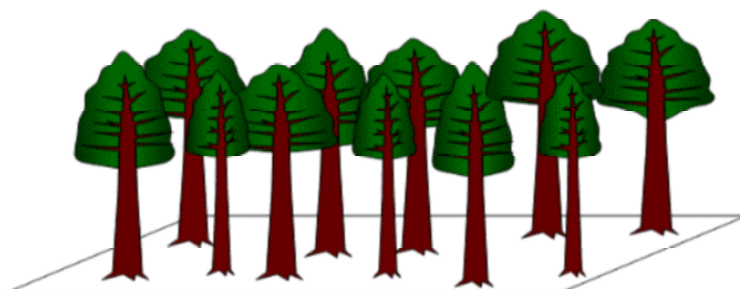
江戸時代に大火の復旧や築城ブームにより、ヒノキなど母樹保残的な伐採を行う。



天然更新でヒノキなどの木曽五木や広葉樹などが生育した。



幕府による厳しい木曽五木の禁伐対策により、木曽ヒノキ等は守られる一方、その他の木は地元民により伐採された。



現在の木曽ヒノキ一斉林が形成される。

木曽ヒノキ林は、いわゆる原生林ではなく、大規模伐採やその後の広葉樹の選択的伐採などを通じて人為により形成されてきた、いわば天然生二次林といえます。